令和６年度　調布市立北ノ台小学校　授業改善推進プラン

様式１－１

|  |
| --- |
| 学校の教育目標 |
| ◎思いやりのある子ども ○よく考える子ども ○明るく元気な子ども |
| 目指す学校像（ビジョン）　例）学校像，教員像，児童・生徒像 |
| 目指す学校像 【子どもたち一人一人を大切にする学校】 1. 児童にとって　 「よろこびのある毎日が送れる学校」

 ・友達と関わることのできるよろこび　　・学んで分かるよろこび　　・心を解放して体を動かすよろこび・自分の存在が認められるよろこび　　・自分の成長が実感できるよろこび・自分の将来に希望がもてるよろこび 1. 保護者，地域にとって 　「安心して任せられるみんなの学校」

・開かれた学校（教育活動の積極的な発信） 　・安心できる学校（チームで迅速，誠実な対応）・私たちの学校（協働，連携）1. 教職員にとって　「自己実現できる職場」

 ・風通しのよい明るい職場　　・やりたいことができる職場　　・成長できる職場 |
| ビジョンの設定理由（本校の現状と課題） | 〇児童は素直で真面目であるが，全体的におとなしく控えめで自己肯定感が低い児童が多い。児童が自分のよさに気付き，自分のよさを生かすことのできるよう環境を整え，児童が自ら考え，主体的に活動する学校にすることが課題である。○個別の支援を必要とする児童が一定数いる。また，不登校及び不登校傾向のある児童が多い。校内委員会，不登校対策委員会の定期的な開催やSC，関係機関と連携した組織的な対応を進めることが課題である。 ○学習指導要領や新たな教育課題への対応がまだ十分とは言えない。校内研究やOJTを通して，教員の指導力を向上させることが課題である。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 教科 | 目指す学校像（ビジョン）を基にした育成したい資質・能力 | 資質・能力を育成するための具体的取組 |
| 国語 | ・日常生活に必要な語彙について，その意味や特質を理解し適切に使う力。・叙述から想像し，思考し，自分の言葉で表現し、伝え合う力。・言葉がもつよさを認識するとともに，言語感覚を養い，自分の生活に生かそうとする力。 | ・ICTや辞典を活用して，調べる活動を充実させる。読むことや書くことの学習の中でも,言葉に着目し，広く深く考えさせる。・一人一人が自分の考えをもてる指導計画を立てる。個人，小グループ,全体による話合い活動を工夫して取り入れる。・授業を通して身に付いたことや学びがどのように生かせるかなど，自分の学習状況の振り返りを充実させる。 |
| 社会 | ・必要な情報を集め，情報や資料を読み取り，問題解決に向けてまとめる力。・根拠や理由を明らかにして考えたことを説明したり，資料などを用いて作品や図表にまとめたりする力。・主体的に学習問題を解決し，学習内容を生活に生かそうとする態度。 | ・調査活動や諸資料を使って情報を調べたり，読み取ったり，まとめたりする活動を取り入れる。・自分の考えをノートにまとめたり，説明したりする活動を充実させる。また，複数の資料を比較して考える問題を取り扱う。・日常生活に関連した資料を提示し，児童の疑問や問いから学習問題を設定する。 |
| 算数 | ・数量や図形についての概念や性質を理解し，確かな知識・技能を習得する力。・筋道を立てて考察し，数学的な表現を用いて順序良く表現する力。・数学的活動の楽しさに気付き，学んだことを生活に活用しようとする態度。 | ・計算のきまりや作図の手順，立式の根拠を説明させるなど，習得した知識・技能を活用する機会を増やす。・問題の種類に応じて図に表したり，互いの考えを説明し合ったりして問題解決の糸口を見付けさせる。・数や量の大きさを実測する体験活動や日常生活に結び付いた問題を多く設定する。 |
| 理科 | ・自然の事物・現象の性質，規則性の把握及び器具，観察・実験の適切な処理を行う力。・課題作り・自然事象に対する疑問や問題を見出す力，予想，仮説，解決策の発想，結果の解釈，結論の妥当性の判断をする力。・自然や生命に親しむ態度。自分の考えにおける妥当性を検討し，学びを日常生活に生かす態度。 | ・単元の性質に応じ，ICT等を活用しながら，自然事象を量的・関係的視点，時間的・空間的視点,質的・実体的視点などで捉えていくように系統的指導を行う。・条件制御，推論，比較・関係付け，因果関係，連続性，多様性など，どの理科の見方・考え方を，どの単元で働かせていくのか　見通した学習計画を立てる。・粘り強く考える,他者と学び合う，学んだことを生活に生かす,生命について考える時間を計画的に設定する。 |
| 生活 | ・自分自身，身近な人々，自然の特徴や関わりに気付き，生活に必要なことを身に付ける力。・身近な人々，自然との関わりを意識し，生活について考え，表現する力。・身近な人々や自然に関わり，意欲をもって生活を豊かにしようとする態度。 | ・同じ事象と繰り返し関わる場を設定し，児童が試行錯誤することを通して，生活に必要なことを気付かせる。・自分の考えを言葉や絵で分かりやすく表現し，互いに伝え合う活動を多く設定する。・実際に動物や植物に触れ合ったり，地域の人々と交流したり，体験活動を多く取り入れる。 |
| 音楽 | ・曲想を活かしながら,工夫して演奏したり表現したりする力・曲の良さを自ら見つけたり,創造力を活かして表現したりする力・音楽と関わる楽しさを感じ,他者と協同しながら音楽活動に参加する態度 | ・ICT機器を活用し,段階に応じたパートを選択させ,個々のレベルに応じた教具を選べるように促す。・様々な楽器や編成の音楽を取り入れ,曲想や音色の良さをその都度自分の言葉や演奏で表現させる。・他者と演奏したり考えを伝え合ったりする時間を設け,音楽を楽しむ主体性を養う。 |
| 図画工作 | ・自ら創造的につくったり，工夫したりして表現する力・創造的に発想，構想し,自分の見方や考え方をより深める力・つくり出す喜びを味わい，楽しく豊かな生活を想像しようとする態度 | ・造形的な見方について,自分の感覚や行為を通して理解させ,材料や用具を選択し活用させる。・ICTを活用し,造形的なよさや美しさについて効果的にイメージをもたせる。・主体的に表現したり,観賞したりする題材を児童の実態に応じて設定する。 |
| 家庭 | ・日常生活に必要な家族や家庭，衣食住，消費や環境について理解し，それらに関わる技能を身に付ける力。・日常生活から課題を設定し，解決方法を考え，表現するなどして，課題を解決する力。・生活の営みの大切さに気付き，家庭生活をよりよくしようと工夫する態度。 | ・体験活動を増やし，ICTを活用することで，生活に必要な知識や技能を確実に習得させる。・課題調べやトライカードなど家庭との連携をとり，自分の家庭や自分自身の問題点に気付き，それらを交流することで，解決する方法を自ら考えられるようにする。・問題解決の学習過程を通して，課題を解決できた達成感や喜びをもたせることで，さらによくしていこうと工夫，実践させていく。 |
| 体育 | ・各種の運動の行い方や健康・安全について理解し，動きや技能を身に付ける力。・自己の課題を見付け，思考し判断するとともに他者に伝える力。・運動に親しみ，健康の保持増進と体力向上を目指し，楽しく明るい生活を営む態度。 | ・友達と見合うことやICT機器の活用を通して，自分の動きを客観的に確認して修正できるようにする。また，健康な生活など日常生活に関連した学習課題を設定し，課題解決に役立つ保健領域の主要な概念を習得させる。・課題解決のための時間や場，補助具などを用意し，児童同士が試行錯誤しながら課題解決できるようにする。・技能差に関わらず，全ての児童が活躍できるように教材を工夫し，一人一人が運動することの楽しさや喜びを味わうことができるようにする。 |
| 外国語 | ・外国語の音声や文字について，日本語との違いに気付き，実際に活用する力。・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，自分の考えや気持ちなどを伝え合う力。・他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。 | ・ＡLＴ，ＩＣＴ,音声教材等を活用して，体験的に言語や文化についての理解を深めることができるようにする。デジタル教科書を活用する時間を設け,個別最適な学びができるようにする。・授業の流れを明示したりワークシートを作成したりして，活動の「目的，場面，状況」を明確に提示することで，児童が思考を働かせながら，自分の考えや気持ちを伝え合えられるようにする。・毎時間ねらいを示し，振り返りを行うことで，自ら達成感を味わったり，学びを調整したりできるようにする。 |
| 道徳科 | ・道徳的諸価値について理解し，自己を見つめる力。・他者と対話したり協働したりしながら物事を多面的・多角的に考える力。・自分の経験や感じ方と照らし合わせながら，考えを深めようとする態度。 | ・導入や教材提示を工夫し，道徳的諸価値を自分事として捉えられるようにする。・話合い活動を充実させ，様々な考えに触れる時間を設ける。・振り返りの時間を設定し，これまでの自分や今後の自分について考えられるようにする。 |
| 外国語活動 | ・相手と主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさを知り，日本と外国の言語や文化について理解する力。・身近で簡単な事柄について，外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力。・外国語を通して，言語やその背景にある文化に対する理解を深め，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。 | ・ＡLＴ，ＩＣＴ,音声教材等を活用して，体験的に言語や文化についての理解を深めることができるようにする。・授業の流れを明示したりワークシートを作成したりして，活動の「目的，場面，状況」を明確に提示することで，児童が思考を働かせながら，自分の考えや気持ちなどを伝え合えるようにする。・ＡLＴとの1対1の会話や，友達同士のやりとり、教え合いなど，学習形態を工夫することで，児童が達成感を味わったり，学びを調整したりできるようにする。 |